



編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森岡, 次郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/14896

編集後記

『人間科学』の第11号をお届けいたします。今号もまた、執筆者の方々には、貴重な研究成果をご寄稿いただき、ありがとうございました。

私は自分の研究をシンプルに、わかりやすくパッケージ化することができません。それは私の能力不足であり「知的な怠慢だ」といわれてしまえばその通りなのですが、自分の研究が、目の前の（例えば学校現場での）問題解決にとってどのように役に立つのか、と問われると、しばしば口籠もり、閉口してしまいます。

とはいえ、学問研究は外部からの要請に応じて有用性を主張するような、他律的・従属的な知のあり方だけではない、と信じています。「役に立つ」という価値規範や「グローバル化」「地域貢献」といった社会からの要請をクリティカルに問い直し、歴史的・文化的な文脈に結びつけて思考することも、自律的・主体的な学問の重要な役割であると思っています。

人間という存在や、人間の営みを対象とする私たちの研究においては、多様性と他者性（差異）が重要であると思っています。「有用か無用か」「敵か味方か」といった単純な二項図式の前で立ち止まり逡巡する「他者」でありたいと思います。

2016年度より、「人間社会学研究科」は「人間社会システム科学研究科」へと名称を変更しました。それに伴い、人間科学専攻・博士前期課程担当の構成メンバーも変更しています。

とはいえ、本誌『人間科学』への投稿資格がなくなった、という人はおりません。新・旧の博士前期・後期課程担当人間科学専攻教員のみなさまには、次号以降も積極的にご投稿いただきますこと、よろしく願いいたします。

（文責 森岡次郎）